

第2分科会 学校教育

会 場 加賀市文化会館

日 程 12:30 ~ 13:30 受付
13:30 ~ 13:50 オープニングアトラクション
13:50 ~ 14:05 開会行事
14:05 ~ 14:30 基調講演①
14:30 ~ 14:45 実践発表
14:45 ~ 14:55 休憩
14:55 ~ 15:45 基調講演②
15:45 ~ 15:55 休憩
15:55 ~ 16:40 パネルディスカッション
16:40 ~ 16:45 閉会行事
16:45 終了



中谷宇吉郎雪の科学館 ©石川県観光連盟

祝 辞



加賀市長

宮元 陸

第73回日本PTA全国研究大会石川大会・第81回日本PTA東海北陸ブロック研究大会が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。全国各地から本市にお越しになる皆様を心から歓迎申し上げます。

本大会は、全国のPTA関係者の皆様が一堂に会し、家庭・学校・地域の連携を通じて、子どもたちのよりよい育成を目指す、極めて意義深い催しです。今回、石川県で初の開催となる全国大会において、加賀市がその一端を担えることを、大変光栄に思っております。

近年、社会の変化や子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりつつあり、私たち大人が果たすべき役割もますます重要になっております。PTA活動は、学校・家庭・地域が手を携え、子どもたちの健やかな成長を支えるうえで欠かせない存在です。皆様の日頃のご尽力に、改めて深く敬意を表します。

本大会のテーマ「サステナブルな未来づくりのために～創造と協働を 石川から～」は、まさに現代社会に求められる理念です。持続可能な社会の実現に向けて、創造力と協働の精神をもって、地域の未来を切り拓くことが求められています。

加賀市では、これまでの「揃える」教育から「伸ばす」教育への転換を進めてまいりました。一人ひとりの個性や可能性を最大限に引き出すため、子どもが主体的に学び、挑戦し、共に成長できる環境づくりに力を注いでいます。

すべての小中学校でタブレット端末を活用したICT教育の推進、個別最適な学びと協働的な学びの充実、さらにはSTEAM教育や探求型学習の導入など、子どもたちが自ら考え、行動し、未来を切り拓く力を育む教育改革を進めています。

本年、加賀市は合併20周年、そして会場となる山代温泉は開湯1,300年という大きな節目を迎えました。この記念すべき年に、全国からお越しの皆様には、加賀の温泉や伝統工芸、食文化などもぜひご堪能いただき、交流を深めていただければ幸いです。

本大会が、子どもたちの未来をより良いものとするための新たな気づきや学び、そして全国の仲間との絆を深める貴重な機会となりますことを心より祈念いたします。今後とも、皆様のご活躍とPTA活動の更なる発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

研究課題

子供の豊かな学びを実現するために

～ 創造と協働のある学びをサポートする ～

現状と課題

価値観の多様化や生徒の不登校の問題など、現状の画一的な教育の在り方では対応できない場面が教育現場では増えています。そんな中で新しい時代に即した教育ビジョンを作成した加賀市の事例と、東京都の区立中学校で改革を実践した事例を紹介します。参加した全国のPTA 関係者のみなさまで、現在、そしてこれからの学校教育について考えていきましょう。

討議の視点

- ① 創造的な学びを進めるための取組み
- ② 協働的な学びのポイント
- ③ 保護者の子供の学びの評価

提言者

- 基調講演者
島谷 千春 氏 前加賀市教育長
工藤 勇一 氏 教育アドバイザー
- コーディネーター 寺西 望 氏 加賀市教育委員会教育推進プロジェクトマネージャー
- パネリスト
島谷 千春 氏 基調講演者
工藤 勇一 氏 基調講演者
松本 向貴 氏 加賀市教育長
松田 小百合 氏 実践発表者

基調講演「子どもの未来に思いを馳せる」

パネリストとしてもご参加いただきます



島谷 千春 氏

独立行政法人教職員支援機構 審議役
前加賀市教育長

昨年3月まで、石川県加賀市で教育長を務めたご縁もあり、今回分科会にお呼びいただきました。再び加賀の地に戻ってこられたこと、大変嬉しく思います。

加賀市の現場で、先生たちと子ども主体の授業に変えていくことをひたすら求め、熱っぽく語り合って、悩みながらも、前に進んでいくことができた源泉は、目の前にいるあの子たちを誰一人この義務教育の学びから離脱させたくない、その一心でした。目の前のあの子たちに「学びは楽しい」という感覚を絶対に持って欲しかった。それがあの子たちの日々を「意味あるもの」にして、それぞれの「変容」を後押しすることにつながり、また、将来子どもたちがどんな時代を生きるようになるだろうとも、学びを味方にするのが彼らの強さとなり、どんな道でも進んでいけると思っていたからです。私も小学生と高校生を持つ母、PTA会員として、子どもの教育については判断に迷うことも多いです。ただ一つ言えることは、私たち親世代と子どもたちが生きる時代は全く違うものなので、自分の時代に引っ張られすぎないということが大事なのかなと思っています。どんな学びを経験することが、子どもたちの人生100年時代の味方になっていくのか、皆さんと考える時間になれば嬉しいです。

基調講演「社会の変化とこれからの学校教育～主体性と当事者性～」

パネリストとしてもご参加いただきます



工藤 勇一 氏

経 歴 :

公立学校教員、東京都教育委員会、新宿区教育委員会教育指導課長を経て

千代田区立麹町中学校校長 学校法人堀井学園 横浜創英中学・高等学校校長 内閣官房 教育再生実行会議委員 等
歴任

【2025.6現在】

内閣府規制改革推進会議専門委員 群馬県非認知教育専門家委員会委員 兵庫県芦屋市教育委員会 エージェンシーアドバイザー 横浜創英中学・高等学校教育アドバイザー 東明館学園教育アドバイザー FC今治高等学校里山校 エグゼクティブコーチ
一般社団法人日本の未来構築研究機構 参与 法政大学HOSEI2030推進本部アドバイザー 株式会社EduTopiaアドバイザー

主な著書 :

- 学校の「当たり前」をやめた。一生徒も教師も変わる！（時事通信社）
- 麹町中学校の型破り校長 非常識な教え（S B新書）
- 麹町中学校長が教える 子どもが生きる力をつけるために親ができること（かんき出版）
- きみを強くする50のことば（かんき出版）
- 学校の未来はここから始まる 学校を変える、本気の教育論議（共著 教育開発研究所）
- 最新の脳研究でわかった！自律する子の育て方（共著 S B新書）
- 学校ってなんだ！日本の教育はなぜ息苦しいのか（共著 講談社）
- 自律と尊重を育む学校（編著 時事通信社）
- 子どもたちに民主主義を教えよう～対立から合意を導く力を育む（共著 あさま社）
- 15歳からのリーダー養成講座（幻冬舎）
- 考える。動く。自由になる。～15歳からの人生戦略～（実務教育出版）
- 校長の力-学校が変わらない理由、変わる秘訣（中央公論新社）
- 社会を変える学校、学校を変える社会（共著 時事通信社）
- 家庭・学校・社会みんなに知ってほしい 教育について工藤勇一先生に聞いてみた（Gakken）

講演概要 :

日本社会が抱えるさまざまな課題——若者の当事者意識の欠如、低い幸福度や自己肯定感、労働生産性の低迷など——は、実は学校教育のあり方に端を発している。

この講演では、教育現場で見えてきた本質的な課題を入りに、「なぜ今の組織は自律的な人材を育てられないのか」「なぜ変化に対応できないのか」といった企業や行政組織にも共通する問題を掘り下げる。

特に今後の社会・経済の急激な変化、AI・科学技術の進展、グローバル化に対応する上で重要な以下の2つのキーワードに焦点を当て、子育て・教育の最上位の目的・目標についてお話をしていく。

① 主体性：自ら考え、判断し、行動できる力

② 当事者性：集団・社会の中で起こる課題に自分事として向き合う姿勢

さらに、心理的安全性、自己決定の環境、メタ認知能力の向上といった、教育改革で注目されるポイントを

ヒントに、子育てや学校運営改善に活かす視点を提案する。

【主な論点】

- 日本の教育がもたらした「自律の欠如」が社会や人材育成に与える影響
- 主体性と自主性の違い
- 手段が目的化した組織運営の弊害
- これからの時代に求められるスキル（コンピテンシー）
- 「指導」から「支援」へ
- 心理的安全性と「失敗が許容される」文化の重要性
- 多様性の中で生まれる対立を解決するための対話力

コーディネーター



寺西 望 氏

経 歴 :

加賀市教育委員会教育推進プロジェクトマネージャー
石川県公立高校教員、民間企業、私立高校教員を経て、2023
年から現職。

私立高校時代は探究的な学びや起業家教育等の実践や校内での普及に取り組み、現在は加賀市内のSTEAM教育の充実に向けて学校への伴走を行っています。

子どもたちの豊かな学びを支えるには、学校だけでなく、家庭や地域も含めた共創が不可欠です。私はこれまで教育現場と民間、そして行政の立場から、協働による学びの創造に取り組んできました。本日は、保護者の方々や先生方と一緒に、これからの教育のあり方について、共に深く考える対話の場をつくっていただければと思います。

パネリスト

加賀市教育長

松本 向貴 氏

経 歴 :

文部科学省スポーツ・青少年局青少年課 大臣官房総務課
農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課 出向 後
文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課 大臣官房人事課
文部科学省初等中等教育局幼児教育課（内閣府子ども・子育て本部
併任） 専門官（内閣府子ども・子育て本部参事官付参事官補佐
併任） 文部科学省高等教育局学生・留学生課専門官 文部科学省
高等教育局学生支援課専門官
令和7年4月 現職



加賀市の「学校教育ビジョン」に基づく教育改革のは、今年度も全国から注目をいただいておりますが、この改革は、各学校の努力のみならず、保護者・地域の皆様の支えによって実現しているものと日々感じています。子供の教育を「自分ごと」として捉え、学校内外の子供の成長を見守り、支えてくださっている市の皆様の姿を全国に発信できること、また市内外の方々とこれからの教育について議論できることを楽しみにしております。

実践発表 パネリスト



松田 小百合 氏

加賀市立山代小学校PTA会長

2023年1月より市内すべての小中学校を舞台に、加賀市独自の教育ビジョンをもとにした教育改革が進められています。“子供の豊かな学びを実現するために”という今回のテーマのもと、保護者・学校・地域がひとつになって子供たちの教育環境を整えるために活動するPTAの役割を存分に発揮し、この教育改革をよりスムーズに、そして保護者も一緒にPlayerとなりワクワクできる改革となれるよう考えていけたらいいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

実践の概要：山代小学校における「加賀市学校教育ビジョン」への保護者の理解の現状

- 加賀市では2023年度より学校教育ビジョン「Be The Player」が示され、改革が進められていますが、子供たちに一番近い家族や保護者がこのビジョンを理解していることが、より改革を前進させていくための重要なポイントなのではないかと考える。
- P T Aからの提案
 - アンケート後、結果を学校、加賀市教育委員会とシェアした。保護者がどれほどビジョンを理解しているか、どのツールで情報を得ているかを中心に伝えた。PTA執行部から臨時通信を発行し、改革の基本となる、「なぜ今改革をするのか」「どんな未来を子供たちは生きていくのか」について学んだことをシェアし、みなさんからのアンケート結果なども一部公開しながら、子供をとりまく現代の教育について一緒に考える機会をつくった。
- まとめ

子供たちにどんな大人になって欲しいかという保護者への質問では、①失敗しても立ち直れる②他人とコミュニケーションをうまく取れる③挑戦を恐れない④自分の意見を言える、が上位を占めた。従来型の受動的な授業ではなく、子供たちが自分で考え、動き、対話的・協働的に学ぶ「加賀市学校教育ビジョン」は、きっとこれらの期待に近づけるものである。

今後も保護者・先生方（学校）・地域が一体となってこのビジョンの役割、内容、意味を周知し、少しでも多くの保護者に理解いただく事で、改革の加速につながることを期待したい。